

教育目標		規律ある学校生活をおくる中で、健康な体・確かな知性と豊かな心を培い、自ら考え共に学び合う人間性豊かな児童を育成する。					
運営方針		①学習意欲の向上と確かな学力の定着 ②楽しい学校・楽しい学習づくり ③健やかな心身の育成 ④保護者・地域と共に歩み開かれた学校づくり					
前年度の成果と課題		本年度の重点課題					
成果		ア 基礎・基本の学力の定着と授業改善					
課題		イ 人権教育の推進					
地域との連携を深め、図書館教育や文化的行事を充実させられた。		ウ 地域連携を基盤とした、特色ある学校づくり					
課題		エ 衛生管理と体力の向上					
教師力向上と授業改善。		オ 生徒指導の充実					
個性に応じた効果的な支援体制の確立。							
移住・言葉の違い、廊下歩行など生活指導の徹底。							
教育活動や分学等	評価項目	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善方策等	学校関係者評価	
研修部	ア 基礎・基本の学力の定着と授業改善	授業でめあてを提示し、振り返りを行う。	4	指導者は目的意識をもって授業をし、まだ十分ではないが子どもたちへの意識付けも少しずつできてきている。また、振り返りの時間を十分にとれないことがある。	指導者は学習のめあてを子どもたちをしっかり意識させ、振り返りの時間配分も考慮して、授業を組み立てている。	・先生たちが、児童に適した漢字検定や学習タイムの教材作成を作成していただいていることがとても良い。 ・今年度は休業から始まり(1年生は入学後からいきなり)、基本的な学力が身につけているのか不安に思う。	
		学習タイムの時間を活用し、基礎学力の定着を図る。	4	朝の学習タイムが定着しているので、継続していく。	今年度学習タイムで使用した教材やプリント類を来年度へ引き継ぎ、活用している。		
		各学級の子どもたちの実態に応じて、山の辺漢字検定の目標ラインを設定し、到達率90%以上にする。	4	指導者の意識も高まり、子どもたちも意欲的に取り組む姿が見られたが、新型コロナウイルス感染対策の休業があり、90%以上にすることは今年度については難しい。	子どもたちが主体的に漢字検定に取り組めるよう、引き続き声かけをしたり、具体的な練習方法を教えたり、家庭学習用にプリント等を作成していく。		
人権教育部(人権・特文)	イ 人権教育の推進	人権教育年間計画に基づき、人権意識を育む授業に取り組むことができる。	4	年度初めに計画を立てるが、取組については学級担任の裁量によるところが大きい。また具体的な個別の人権課題への取組を、さらに進めていくようにする。	個別の人権課題に対する取り組みを充実させるとともに、喜怒哀楽の共感共有ができるための取組を進めるようにする。	・児童館での子どもの対応について、さらに学校と連携して進めたいと思っている。 ・コロナ禍のため、幼稚園は今までのような交流はできなかったが、工夫すること等で新たにできたこともあった。 ・小1プロブレムや中1ギャップの解消はとても大切なことだと思うので、今後も連携して協力していきたい。 ・児童養護施設の子どもたちは、学校生活が落ち着いていくと気持ちも安定してくるので、先生たちの配慮に感謝している。	
		地域の関係機関(児童養護施設、児童館等)と研修や連絡会を設け、児童理解に努める。	4	様々な状況におかれている児童について、生活背景を踏まえ児童理解に努める必要がある。	今後も関係機関との連携を密にし、様々な視点から児童理解に努めるようにする。		
		保幼小中連携を密にし、小1プロブレムや中1ギャップの解消を図る。	4	人権以外の教員と保幼中の教員の交流を進めていく必要がある。	今年度は新型コロナウイルス感染防止のため様々な行事が中止となったが、落ち着いてきたときに、各教員が意識して連携した事業への学年での取組を進めるようにする。		
		不登校等支援委員会や適応指導教室の取組を周知する。	4	必要に応じて、取組を進めることができる。また、別室登校の支援も行った。	不登校傾向の児童への周知を、確実に行うようにする。		
		ひまわり学級在籍児童に対する正しい理解を図るための取組が行われている。	4	児童の中には、それぞれに個性があり、その個性を大切にすることが必要であるという認識は、育ってきている。	今年度は集会等はできなかったが、学級指導等によって、より取組を進めていくようにする。		
		ケース会議や校内委員会を通して、支援の必要な児童の実態を共通理解できている。	5	日頃より学年部を中心に共通理解を行った。また、定期的なケース会議や校内委員会を持つことができた。	今後も、全職員の共通理解を図っていくようにする。		
文化情報部	ウ 地域連携を基盤とした特色ある学校づくり	おすすめの本を紹介したりお礼プレゼントを実施したりすることで図書館教育を充実させ、学校図書館の貸出総数が4000冊を超えている。	4	貸出総数4000冊(見込)で、目標を達成できた。来年度は5000冊を超えることを目指したい。	さらに高い目標に向かって、読書活動を推進する。児童の図書館利用の活性化を目指して取組を工夫する。	・コロナ禍に対応した読み聞かせポロリンシアの活動を工夫して実施でき、読書活動の推進に役立って良かった。 ・学校のホームページを見るようになります。	
		学校ホームページを活用し、学校行事や各学年の様子を地域に発信している。	4	行事に関する分は少なくなりましたが、期限内にホームページを更新することができた。	来年度も期限内の更新を目指す。		
健康教育部	エ 衛生管理と体力の向上	行事後にふり返しをして、次年度につなげる。	4	今年度は行事がほとんど実施できなかったが、工夫して実施した行事の事後の反省や意見をとりまとめることができた。	今後も計画立案等を全体に提案し、検討を重ねて、事後の検証をしっかりと行い、次年度につなげるようにする。	・運動会は、規模を縮小し低中高等学校別の実施やPTA役員がアルコール消毒作業をして、実施できたことがとても良かった。 ・来年度もコロナ禍は続くと思うので、学校の行事について見直し機会はないか。	
		安全面に配慮した体育活動や行事を提案・実施している。	4	例年よりは少なくなりましたが、しっかりと活動案を練り上げ、全体で検討しさらに改善して、工夫を重ねて実施できた。	現状ではまだ様々な制約があるが、全職員で工夫を重ねて実施できることをこれからも増やしていくようにする。		
		衛生面に配慮した保健行事や取組を提案・実施している。	4	例年よりは少なくなりましたが、養護教諭を中心として活動案を練り上げ、全体で検討しさらに改善して、工夫を重ねて実施できた。	現状ではまだ様々な制約があるが、全職員で工夫を重ねて実施できることをこれからも増やしていくようにする。		
生徒指導部	オ 生徒指導の充実	「学習のきまり10ヶ条」を守り授業に取り組むことができる。	4	全体的に守られているが、学級によっては、取り組めた項目と不十分であった項目がある。	学級ごとに振り返りを行い、次年度に改善を図る。	・(廊下を走らない)こういったマナーが、将来の交通マナーにつながると思うので、先生たちは引き続き様々な工夫をして指導してほしい。 ・地域の子どもたちに、こちらから繰り返し挨拶等の声かけをしている。少しずつ返ってくるようになってきた。 ・いろいろな学年の児童が一緒に遊んでいるのが、すばらしい。 ・学力の向上は大切だが、心の成長も大切にして指導していただきたい。	
		全校朝会や集会などの場で静かに話を聞くことができる。	4	全体で集合する機会はなかったが、学級単位で話を聞くことはできていた。	現状では、全校で集まることはできないが、各学級で引き続き聞く態度の育成に努めていく。		
		廊下を走らず、右側通行を守る。	2	特に休み時間の始めと終わりや下校前に廊下を走る児童が数多くいる。	全職員で指導にあたりるとともに、掲示物など目に見えない形の工夫を委員会活動等で取り組んでいく。		
		時間が守られている。(チャイムと同時に授業を始め、チャイムと同時に終わる。)	3	共通理解のもと、全教職員が意識し、概ねチャイムで動いている。	学級ごとに振り返りを行い、次年度に改善を図る。		
		あいさつができています。	3	コロナ禍の中で、あいさつ指導を行うのは困難である。	現状でできる指導を学級ごとで行っていく。		
		活発な委員会活動ができています。	4	コロナ禍の中で制約はあるが、少しずつではあるが主体的な活動ができるようになってきている。	現状でできることを児童に考えさせる機会をつくり、自発的・自主的な活動を呼びかけていく。		
		時と場に応じた言葉遣いができている。	3	敬語や丁寧な言葉遣い、授業中の発言などに課題が残る。	発達段階に応じた言葉遣いの指導を継続していく。		
		安全に気を付けて分団で登下校ができています。	3	人数の多い班や課題のある班は、年間を通して継続的に指導が必要であった。	毎月の班長指導で班長・副班長に高井意識を持たせるとともに、高学年にも呼びかけ、全員に分団会などで指導を継続していく。		
「山の辺小学校のきまり」が守られている。	4	全体的に、よく守られていた。	細かい部分や指導が必要なことがあれば、組織的な指導と対応をしていく。				
		いじめ早期発見に努める。(生活アンケート、学級の情報交換等)	4	早期発見、情報交換、組織対応ができていた。	全職員で全校児童を見ていくという体制を継続する。		